

## 太陽と桜のあいだで



校庭の桜が、空いっぱい花を広げ、新たな一步を静かに祝福しています。やわらかな春の光を受けて咲くその姿は、まるで「ここから始まる一步を大切に」と語りかけているようです。実は、桜が咲くためには、ただ暖かくなればよいわけではありません。冬の間、厳しい寒さを経験することで「休眠打破」が起こり、眠っていたつぼみが目を覚まします。そしてその後、春のあたたかな日差しを受けて、一気に花を開かせるのです。子供たちの成長も、これとよく似ています。うまくいかないことや悩む時間も、すべてが次に咲くための力となり、そこに周囲のあたたかな関わりや支えがあって、初めて大きく花開いていきます。

新しい年度が始まりました。子供たちは、新しい出会いに胸をふくらませながら、この春を迎えています。その中で、ひときわ頼もしく感じられたのが、最高学年となった6年生の姿です。入学式の前日準備では、自分の役割を自覚し、進んで動く姿が随所に見られました。そして当日、1年生にやさしく寄り添い、学校の顔として立派にその責任を果たしていました。その姿は、まさに学校にあたたかな光を届ける存在でした。6年生が動くことで、周りの子供たちの心にも光が差し込み、学校全体に安心と活気が広がっていきます。今年一年、その活躍がさらに「満開」になることを心から期待しています。

さて、学校生活は「一期一会」の連続です。同じクラス、同じ友達、同じ先生と過ごすこの一年は、二度と同じ形では訪れません。だからこそ、出会った人と真剣に関わってほしい。関わる中で、うれしいこともあれば、時にはぶつかることもあります。しかし、その一つ一つが、人を育て、心を育てていきます。



人は、人との関わりの中で育ちます。関わりを深めるほどに、相手のことが見え、自分のことも見えてきます。そこから生まれる信頼やつながりが、やがて「よりよい関係」をつくり、未来を形づくっていきます。学校とは、そのような経験を重ねる場です。子供たちが安心して挑戦し、失敗し、また立ち上がることができる場所。そして、一人一人の可能性があたたかく照らされる場所です。



満開の桜が太陽の光を受けて輝くように、子供たち一人一人が、この一年の出会いの中で関わりを深め、自分らしい花を咲かせていくことを願っています。そして散田小学校が、子供たち一人一人の成長を照らし、支え続ける存在でありたい。

学校は太陽！！ つまり、SUNだ！！